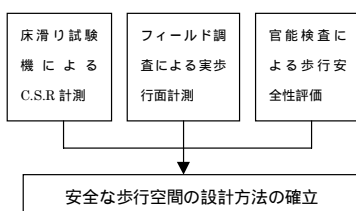


# 建物出入り口や歩道部の雪による滑り安全性向上に関する研究

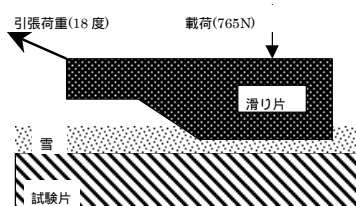
担当部科

人間科学科、住生活科

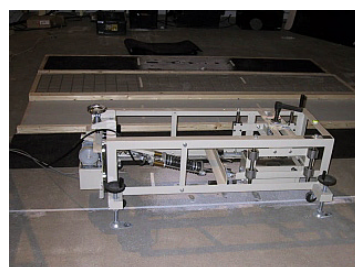
**研究の目的** 積雪寒冷地においては歩行安全性確保が重要な問題である。雪が介在するような床の滑りやすさについて、材料の滑り性状、歩行安全性を、滑り抵抗係数の測定や歩行実験などから明らかにする。



研究フロー図

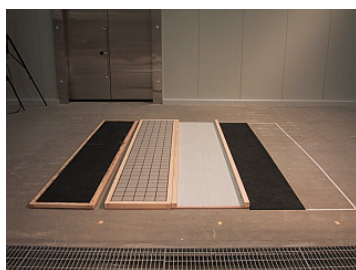


実験概念図



床滑り試験機

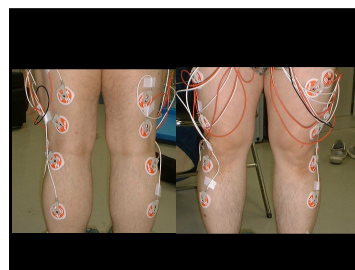
**研究の結果** 絶対評価としての床の安全性はC.S.R.(滑り抵抗係数)が大きいかほど安全性を高く感じていた。雪のある状態での歩行について、C.S.R.が0.2以上でないと感じることができずと評価された。冬期間の雪のある状態での滑り性状について、床滑り試験機により歩行安全性の検討が可能であることが明らかになった。



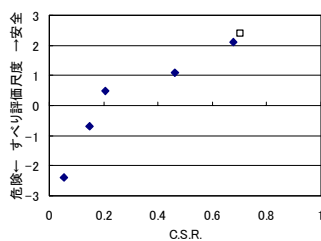
5種類の歩行路面



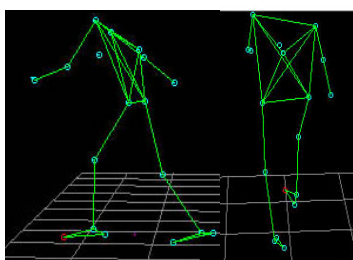
動作解析用マーカー



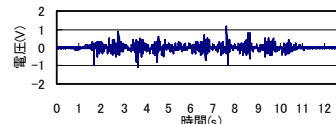
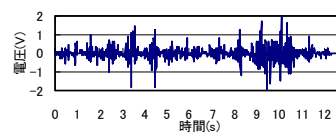
筋電図用電極



C.S.R.と滑り評価



滑った時の姿勢



筋電図の比較 (上が滑りやすい場合)

**活用方法・成果** 今後実際の積雪条件での動作解析などを合わせ、スロープや階段などの歩行環境に対する安全性の研究を行い、アプローチ空間の設計に活用ができる資料としてまとめ情報提供していく予定である。

シ  
エ  
ズ  
研  
究